

中村自治会は、綾瀬市のほぼ中央に位置しており、綾瀬町(村)の役場があった地区で、現在も綾瀬小学校、綾瀬中学校をはじめ、綾瀬厚生病院、中村地区センター、綾瀬中郵便局、深谷交番、綾瀬市商工会、綾瀬市保健福祉プラザ、綾瀬市民文化センター、JA農産物直売所、ホームセンター等、綾瀬市の中心的な場所となっています。

中村という名の由来は、古くは綾瀬村の真ん中にあったためとも言われています。中村地区には、深谷神社、大法寺、お不動様、お地蔵様、稻荷様、おさんのもり等綾瀬市の歴史にまつわるものがあります。

中村自治会では、子供見守り、防災訓練、美化清掃、運動会、盆踊り、中村祭りの事業を通じ地域の親睦を深めています。また、自治会神輿、囃子等地域の伝統芸能活動にも力を入れています。

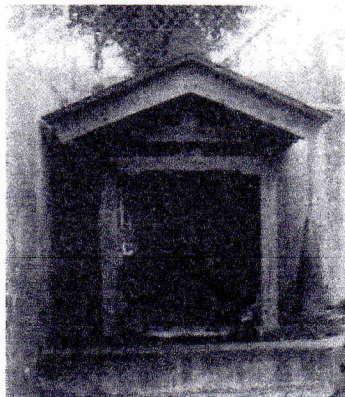
現在の会員数は約2,100世帯で、行政の情報は回覧等にて提供しています。

中 村 の 歴 史



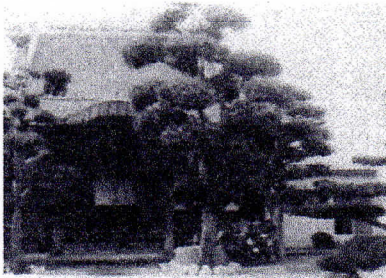
1. 深谷神社

風土記に「聖権現社、村の鎮守なり、不動を神躰とす。」とあり、綾瀬村風土記には「祭神、伊奘諾尊、明治4年再建。」と記されている。明治末年、上深谷に有った秋葉社が合祭され、厚木基地の騒音被害の為、本蓼川の人達が中村に移住された時、本蓼川神社(祭神、大山祇命－農業商業の神様)と合祭された。



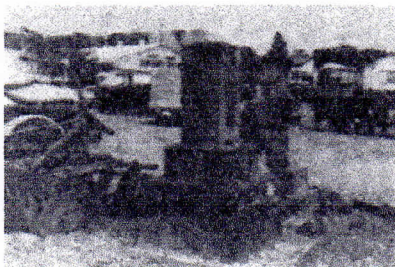
2. 秀の木のお地藏様

お宮の裏から東へ数十メートル歩いた所に、どこからか来て先生をしていた学者さんをお祭りしたお地藏様がある。延享2年(1749年)に造立されているが、田戸さんの家から高島さんの家へ帰られる途中、ここで倒られたので、お地藏様を建て供養した。しばらく前までは、命日には寄付を集めて、子供達にみかんや菓子配った。



3. 大 法 寺

1271年日蓮上人が滝の口にて法難を免れ給い、依知の本間重連の館へ護送せられる途中、淡島明神堂(大法寺境内にあり)にて、御休息された因縁により、応永2年(1395年)上行院日叡上人によって開山された。淡島堂は落合の、やはり鎌倉街道の傍にあった「びわん堂」(落合小学校の南、新幹線北側の山の中)の所にあったとも言われるが、大法寺北側の道も鎌倉街道とされるので、現在の場所で日蓮上人が御休息されたのであろう。



4. お不動様

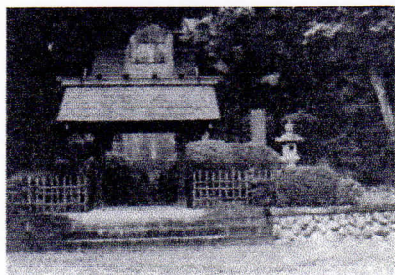
農協の購売部の裏の道に入って最初の十字路を左折すると、不動明王の石像が祀られている。大山の不動様の信仰と関連して建てられたもので、傍に五輪塔の火輪と土輪がある。600年前の武士の墓石で、渋谷重国の孫の孫、又はその家臣の墓碑である。

5. 玄蕃稻荷

長後座間線の県道を大法寺から北へ二番目の細い道を東に入った所にある。「多田」性の先祖、多田玄蕃守が520年前に勧請したと伝えられる。旧家では家毎に屋敷神として、稻荷様を祭る家と、そして家でも祭り、講中にも入っている家がある。



6. 綾瀬市慰霊塔



7. 綾瀬町役場

戦前から戦後にかけて、綾瀬の行政をになってきた木造2階建ての「綾瀬町役場」(旧庁舎)である。詳しくは、明治22年の町村制の施行に伴って生まれた綾瀬村の行政をつかさどるところとして深谷2200番地に建てられた木造平屋建ての庁舎。(昭和11年まで耐用)

続いて、昭和12年から47年まで町民の利便を考えて今の農協と向い合わせに建設されたのが右の旧庁舎である。そして、昭和48年に現在の深谷3737番地に移転し、後文化財収蔵庫として大事な役割りを果たしてきた。建て物が老朽化したため、平成5年に取りこわされ現在は駐車場として利用されている。

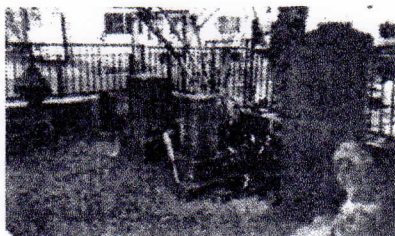


8. おさんのもり (漢字は定かでない)

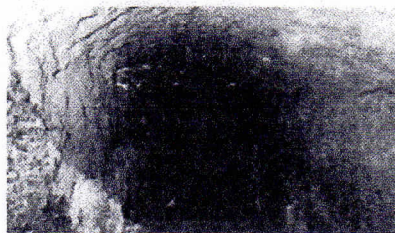
中原街道沿い、深谷派出所前の一画にある。堅牢大地神(文政2年)、庚申塔(万延元年)、石灯籠、その他(破損紛失)以上は大正12年耕地整理竣工時この場所に寄せた。同時に耕地整理記念碑(題字牧野随吉書)が建立された。昭和30年頃畑灌区画整理で中原街道より分岐していた早川道入り口にあった、不動明王道標(天保14年)と庚申碑(破損著しい)を此処に移した。おさんのもりは、新道講中の集合場所でもあった。川刈り、道普請、団子焼き等、明治から大正初期にかけての伊勢参りする人が此処に集合して立振る舞いに大人には酒、子供には菓子や蜜柑を振るまった。地神講は春秋の社日に輪番制で当番の家に米3合を持ちよって、宿では小豆飯と野菜ものの煮付けをつくり、地神様に供え会食する。

この席上で諸々の取り決めを行う。例えば川刈り、道普請は何日にするか、当日都合が悪く出られない人の出不足は幾らにするかなど。

現在は秋1回秋の社日付近に当番が日時を決定し会費により、集会場で実施している。



この講中は現在の自治会制度以上で、入会しないと冠婚葬祭等に事欠き、あらゆる職業の人が入会していた。



9. 水田耕地整理と隧道

深谷川、比留川共に水源に乏しく天水に頼って来た。従って水稻の苗を仕立てておいても、植える時期に水がないと植田が出来ない故に、積田(直播)が多く、積田上りと言う休日があった。

原一つ越えれば水源豊富で、水があり余る蓼川があるこの水を隧道によって、比留川に引き利用する計画で耕地整理事業として大正8年着工された。この工事は画期的大事業、隧道は綱島茂氏宅上より現在の工業団地加川製作所下側まで500間(約900M)、落差が無いため川沿いの山林の下を逆上って500間(約900M)、現在の厚木基地内に取水せきをつくった。戦時中相模野航空隊ができ、防空壕を掘ったため隧道が各所で横断され、剥き出しになり霜崩れで埋まったり、工業団地の造成等により山沿いの隧道は使用不能、現在は加川製作所下側でポンプアップしている。

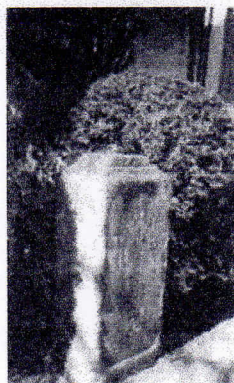
田画を整理し大きな土手を取り去りその土を山林に運び、小さい田は寄せて整然とした形にして、比留川、深谷川にコンクリートの取水せきをつくった。中川は新しく掘った排水路、下流では取水もした。

工事費も大変で田を買い取る代金ぐらいかかった。

10. 力 石 (ハツタンブン)

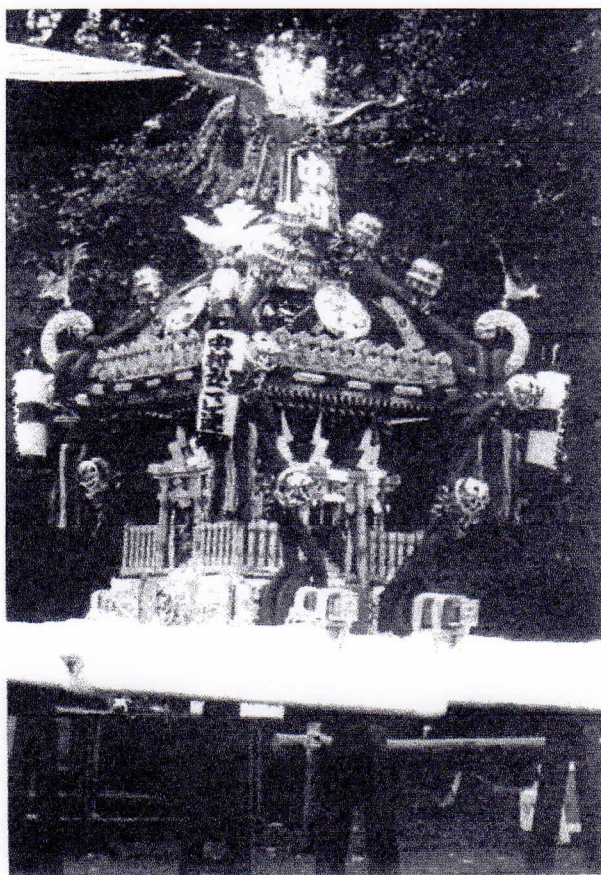
明治の末期、大正、昭和時代の若者達の力石。この石が担げないと一人前の男ではないと言われ休日や夜学の帰りなどに盛んに挑戦した。目方は20貫とも24貫とも言われたが検貫はされていない。元回り坂上に安置されていたものを誰かが、深谷神社付近に持ってきて力石となった。

石に刻まれた文字は右大山道と道知るべ、羽黒山供養、綱島友衛門建立その他多くの文字があるが判読が難しい。終戦後程経て、前農協の精米所付近の道端に放置されていたのを、ある人の忠告で建立者綱島家に安置されている。



11. 中村神輿

1993年に中村自治会の若者達が立ち上がり努力した結果、地域みんなの神輿が誕生したのである。年々、自治会員のみなさんの参加が多く、今では地域ふるさとづくりの中心となって、若者達の世代へと引き継がれている。



12. 綾瀬大橋

H 7. 12. 開通

